

目次

- ▶ 薬剤部長ごあいさつ表 紙
- ▶ 特集 1 6つの科が連携した新しい治療法で進行食道がんに立ち向かう!...2・3ページ
- ▶ 特集 2 作詞家なかにし礼氏が陽子線がん治療センター訪問・講演...4ページ
- ▶ シリーズ ドクターにききましたっ!.....5ページ
- ▶ 病院紹介 顔の見える薬剤師を目指して.....6ページ
- ▶ コンチェルトのページ7ページ
- ▶ 県立ほすびたるニュース8ページ



薬剤部長ごあいさつ

福井県立病院薬剤部長

森 富男



平成29年4月1日に薬剤部長を拝命いたしました。薬剤部では、「総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。」という福井県立病院の理念のもと、当院が提供する医療について安全の確保と質の向上に努めています。

薬剤師は、医薬品という物を中心にして医療に関わっています。すなわち、医薬品の品質保持に留意し、効率的な使用のための在庫管理の徹底や、電子カルテと連動した部門システムを活用した処方チェックによる重複投与の防止など医薬品の適正使用を推進しています。さらに、機械による内服薬の一包化や注射薬の患者さんごと、施用ごとの払出しなどを行うとともに、サポートシステムの活用や手順書の整備等により調剤でのエラーを極力減らすようにしています。中でも、抗がん剤については、レジメンにより投与全体の管理を行うとともに、調整を全て薬剤部内で無菌的に行い、化学療法の安全確保に努めています。これらの業務の重要性は今後も変わることはなく、引き続き重点的に取り組んでまいります。

近年は、それらに加えて、薬剤師も人を中心とした医療への関わりがより求められてきています。従来から、主にがん関連病棟を中心に薬剤管理指導を行ってきており、栄養サポートチーム(NST)や感染制御チーム(ICT)などにも参加していましたが、本年度からは、薬剤師を増員するなどして、一般病棟全体で病棟担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務を実施することとなりました。病棟において、必要に応じて、患者さんに薬の説明や服薬方法の指導を行うとともに、医薬品の投与歴の確認や、医師、看護師など医療スタッフへの医薬品情報の提供などチーム医療の一員として、患者さんの治療により直接的に関わっていくこととなります。これらの業務は、より一層、専門的な知識や経験が求められるため、各自が自己研鑽に努めています。

これからも薬剤部の職員一同、県民のため医療安全の確保と医療の質の向上に貢献できるよう努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

福井県立病院理念・基本方針

理念

私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

基本方針

1. 心身ともに全人的な医療を提供します。
2. 質の高い医療、特殊・先駆的医療を提供します。
3. 安全管理を徹底し、患者様本位の医療を提供します。
4. 救命救急医療の充実を図ります。
5. 地域医療機関との連携に努めます。
6. 個人情報の適切な管理を行います。
7. 健全な経営に努めます。

「コンパス」には、

「円を描く道具」「方角を示す磁石」の2つの意味があります。

この広報誌が皆様と当院の輪(和)を描くものとなり、また皆様にとって有用な情報を提供することで、今後の皆様の道しるべとなれるようお願いを込めて名付けられました。

平成27年度からは地域医療連携通信「コンチェルト」と統合した内容でお届けしています。

特集 1

6つの科が連携した新しい治療法で

陽子線がん治療センター長 玉村 裕保

陽子線治療は次世代のがん治療の1つと言われ「体にやさしく、がんに強く効く治療」として期待を集めてきました。そして平成28年度には陽子線がん治療で初めて小児がんが公的医療保険の適応になりました。さらに「陽子線治療の全国共通治療指針」や「陽子線治療施設の施設基準」が決まり、全国共通の基準で陽子線治療が開始されています。

この「全国共通治療指針」の中に、当院で研究開発された食道がんの治療方法が取り入れられ、全国の施設で現在治療が行われています。

食道は口から胃につながる細長い管状の器官で、食事をするとき重要な役割を果たしています。この食道にできるがんを「食道がん」といいますが、頸部食道・胸部食道・腹部食道のどの部位にもがんはでき、食道がんは小さくてもリンパ節転移を早期より広域に発生する「厄介ながん」として有名です。また食道がんは治っても再発しやすい傾向のあるがんであり、経過観察も重要です。

従来から行われてきた外科療法（手術）は胸部と腹部を開き、食道とリンパ節をすべて摘出する手術で、その後、胃や大腸を食道の代わりに整形して利用するため、高度な技術が必要で大手術となります。根治を目指す手術は推奨されていますが、いろいろな理由で手術を受けられない方がいるのも事実です。このような場合は抗がん剤と放射線療法を同時に行う方法が行われてきました（化学放射線療法）。食道がんに対する化学放射線療法も手術に匹敵する推奨される方法の1つですが、心臓への副作用などにより、十分な放射線の線量を食道がん当てられない場合も経験されます。

そこで、福井県立病院では消化器内科、外科、病理診断科、腫瘍内科、放射線治療や陽子線治療の6つの科の専門医が集まり、「胃がん食道がんカンファレンス」（カンサーボード）を開いています。このカンサーボードで検討が積み重ねられ、抗がん剤とX線治療を併用して広域の予防領域を照射した後に、腫瘍や転移したリンパ節に限局的に陽子線を抗がん剤と並行して行う「混合照射法」という進行食道がんに対する新しい治療法を研究開発しました。

特に消化器内科や外科の内視鏡専門医と放射線治療専門医と一緒に内視鏡検査を、治療開始時と治療終了前の2回行い、討論して放射線食道炎と腫瘍の状態を評価する方法は、全国ではまだ行われていない理論的で新しい治療方法です。現在、福井県立病院の倫理委員会の審査を経て、福井県立病院発の新しい治療法「進行食道がんに対する混合照射法」として、50名以上の患者さんに混合照射法による治療をさせていただきました。

進行食道がんに対するこの新しい治療法では、抗がん剤と放射線治療に伴う副作用があるため、この治療を安全に遂行するためにはこれらの副作用に対応する高い知識と技術、そして経験が必要となります。すなわち、単科ですべてに対応することは不可能であり、経験ある各科の専門医の協

進行食道がんに立ち向かう！

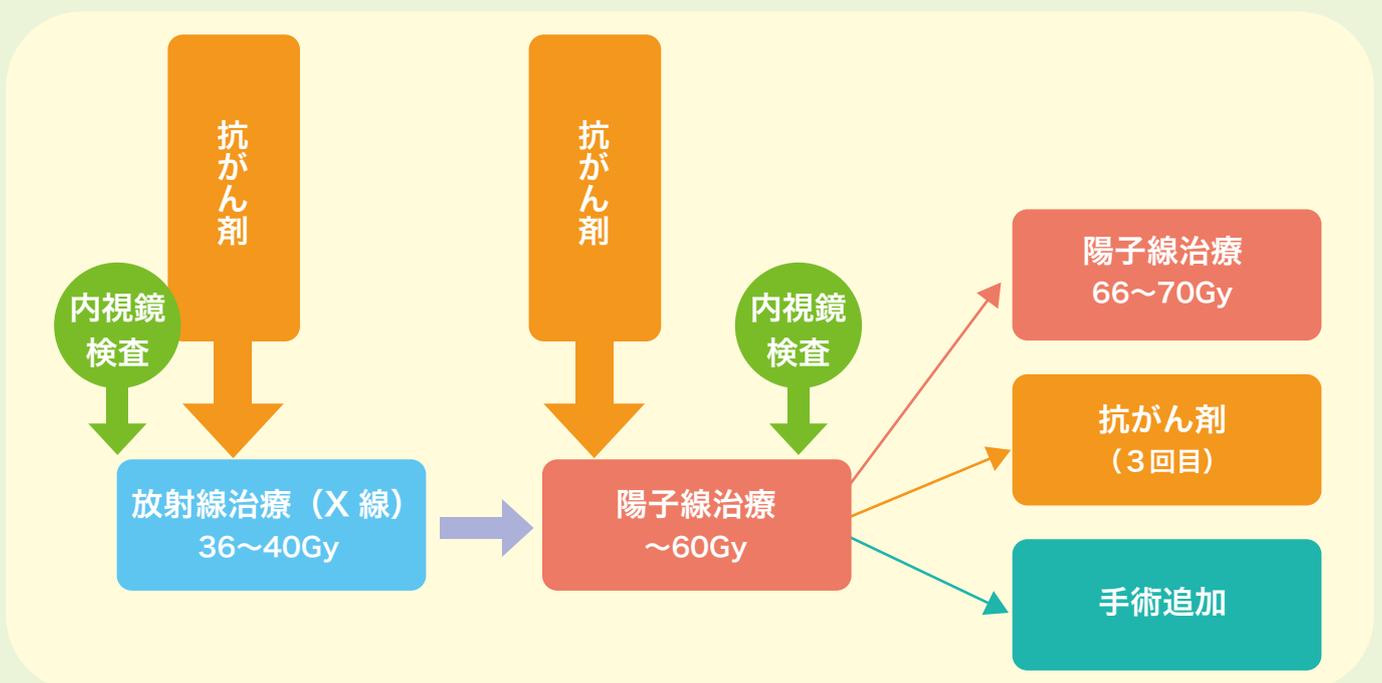
力なしにはこの治療は成立しません。このためこの治療法は福井県立病院のような先駆的な総合病院でなければ開発できなかった新しい治療法です。

現在、治療が終了した50名の患者さんのデータは解析され、この結果は内視鏡学会やJDDW（日本消化器関連学会機構）、放射線腫瘍学会や医学放射線学会などで広く報告され、論文化が進んでいます。



■胃がん食道がんカンファレンス風景

食道がんは発症人数も多く、生活の質（QOL）に大きくかかわる重要な臓器のがんであり、死亡率も高いやっかいながんです。このやっかいながんに対し、当院の6つの科の専門医が集まる「胃がん食道がんカンファレンス」より生まれた「内視鏡所見に基づく進行食道がんの新しい治療（混合照射法）」により、より多くの患者さんが救われることをわれわれは望み、期待し、各科の垣根を越え協力し治療にあたっています。



■内視鏡所見に基づく進行食道がんの治療（混合照射法）の流れ

特集 2

作詞家なかにし礼氏が陽子線がん治療センター訪問 市民公開講座で講演 「生きるということ ～陽子線治療をめぐる～」



平成 29 年 6 月 18 日に作家・作詞家のなかにし礼氏が福井県立病院陽子線がん治療センターを訪問しました。ご自身も陽子線治療を経験されたなかにし氏は当センターの治療施設を見学し、CT 画像により照射位置を合わせる「CT 位置決めシステム」など当センターが行う高精度の治療に大変興味を示されていました。



その後、フェニックスプラザ小ホールで福井県立病院陽子線がん治療センターの市民公開講座を実施しました。会場には約 400 名の方にお越しいただき、広く陽子線治療を知っていただく機会となりました。講演の中で、なかにし氏は自身が食道がんになった際、陽子線治療によりがんを克服した体験をお話しされました。そして、「福井県で陽子線治療を受けられることは、とっても幸せなこと」と語り大きな後押しをいただきました。また、講演後には、参加者の方から多くのご質問やご相談をいただき、皆さまの関心の高さを感じる機会となりました。

今後も、福井県立病院陽子線がん治療センターでは、市民公開講座をはじめとした活動を通して、多くの方に陽子線治療を知っていただく機会を設けたいと考えております。



シリーズ
ドクターに
ききましたっ!

がんサーボードについて

がんサーボードについて教えてください。

今回教えていただくのは 道傳研司中央医療センター長です。

近年のがんの診断や治療の方法は著しく進歩してきており、現在では、医師一人が診断・治療を担うには荷が重い状況になっています。がんと診断されても、診断の詳細な部分では医師によって意見が分かれることもあり、一番良いと考える治療方針が医師によって異なることもあります。



こうした中、平成20年3月に厚労省から出された『がん診療連携拠点病院の整備に関する指針』で、診療体制としてがんサーボードの設置が求められました。指針の中でのがんサーボードの定義は、『手術、放射線療法及び化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の専門を異にする医師等によるがん患者の症状、状態及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンス』とされました。

たとえば、外科医だけでカンファレンスした場合には手術で切除できるかどうか、どんな手術方法が良いかといった手術中心の話になってしまい、がんの進行の程度は本当にそれでよいのか、手術以外の治療はないのかといった話はおろそかになりがちです。手術ではなく、内視鏡治療で十分である患者さん、手術ではなくて抗がん剤や放射線治療の方が望ましいと思われる患者さんも必ずいるため、外科医以外の医師の意見が必要となります。予想されるがんの深さや広がり治療方針を左右するため、病理医の存在も必要です。さらに、治療方針は医学的なことだけで決まるわけではなく、患者さんの希望や社会的背景も非常に重要となります。そのため、医師以外の患者さんを取り巻く医療スタッフも参加して話し合うカンファレンスが必要となります。診療科・職種の垣根を越えて行うがんサーボードはチーム医療の象徴と言えるかもしれません。

当院でも、以前より診療科の垣根を越えたカンファレンスは行っていましたが、参加職種を広げたがんサーボードを、平成21年11月から新設しました。現在、月・水・金の週3日、診療開始前の朝8時より開催しています。医師以外に看護師、薬剤師、放射線技師、理学療法士、作業療法士等が参加し、大腸がん、胃がん、胆のう、膵臓、肝臓といった消化器のがん、乳がん、肺がんの患者さんの治療について討議しています。大多数の病院のがんサーボードでは問題がある患者さんの討議しか行わない中であって、当院のがんサーボードでは手術や内視鏡治療を受けるがん患者さんすべてを対象としてカンファレンスを行い、予定している治療法で問題がないかを確認しています。場合によっては、予定していた治療を延期し、診断自体を再検討した上で治療方針を検討し直すこともあります。治療方針決定に非常に難渋している患者さんに関しては、火曜日の朝に集中して討議する機会を別に設けています。

今では、患者さんに安心して治療を受けて頂くため、そして、私たち自身も迷いなく治療を進めていくため、がんサーボードはなくてはならないものになっています。



薬剤部は、従来、調剤という「医薬品の供給」業務を中心に行ってきました。近年は、高度化かつ複雑化する医療の中で、人中心の業務の比重が増えてきました。患者さんへの服薬指導や医師・看護師など医療従事者への医薬品情報の提供、薬物療法における治療効果や副作用のモニタリングなどです。

これらの業務を充実させるため、これまではがん関連病棟中心に行ってきた薬剤師の病棟配置を、今年度から一般病棟全体に拡大します。



薬剤指導



栄養サポートチームカンファレンス

また、チーム医療の一員として、感染制御チーム(ICT)、栄養サポートチーム(NST)、緩和ケアチームなどのカンファレンスやラウンドに参画したり、他の医療スタッフと協働して糖尿病教育入院患者、精神病棟入院患者やその家族を対象に薬物療法の必要性を説明したりしています。抗がん剤治療を行う外来化学療法室に常駐し薬剤説明や副作用のモニタリング、医師への支持療法の提案などを行っています。

薬剤部では、これらの取組みを通じて薬物療法の有効性と安全性の確保に、より一層貢献していきたいと考えています。



緩和ケアチームラウンド



外来化学療法室 薬剤師

CONCERTO

コンチェルトのページ

福井県立病院 地域医療連携通信

地域医療連携医のご紹介

「医療施設らしくない快適空間」

あらい内科クリニック 院長 あらい よしゆき 新井 芳行 先生

当院の特徴は「医療機関らしくない快適空間」です。待合室には大きなテーブルが置いてあり、患者さんにはゆったりとコーヒーやお茶を飲みながら自分の順番をお待ちいただいています。診察室の中にもテーブルがあり、私と対面して座っていただき、お話をお聞きます。私は白衣を着ないで、診察をしています。それは患者さんに、リラックスした気分でいてほしいからです。



医師は患者さんのサポーター

当院を患者さんに親しみやすい快適空間にしようと心がけているのは、治療だけでなく、患者さんと本音で話ができるようにしたいからです。「生活習慣の改善」と言ってもまずは、ご本人が自分で気づいて、やる気になれば始まりませんし、人によってできることも違います。的確な医学的アドバイスをするためには、患者さんの話をじっくり聞いて、性格をきちんと把握することが、何より大切です。「私は患者さんのサポーターになりたい」と思い、診療をしています。

福井県立病院には高度な医療機器を使用した検査、患者さんの紹介などをさせていただき、お世話になっています。これからもよろしくお願ひします。

住所: 福井市高柳2丁目1301 レインボービル5階
TEL: 0776(54)8334

歯科講演会のご案内

日時: 平成29年11月15日(水)
19:00~20:00

場所: 福井県立病院 3階 講堂

演題: 「口腔粘膜(口腔がん)検診について」

講師 福井県立病院 歯科口腔外科
主任医長 近藤 定彦



地域医療連携医交流会のご案内

日時: 平成29年11月30日(木)
18:30~21:00

場所: ホテルフジタ福井 3階 天山の間

内容: 講演会(18:30~19:25)

「こころの医療センター再編と

救急合併症病棟開設について」(15分)

講師: こころの医療センター長 村田 哲人

「肝疾患に関する最近の進歩と今後の課題」(40分)

講師: 消化器内科医長 砂子阪 肇

懇親会(19:30~21:00)

地域医療連携医の先生のご参加をお待ちしております。

お申し込みは地域医療連携推進室までお願いいたします。

小児病棟で季節の催しを 開催しています！

7南(小児)病棟では、入院中の子供たちに充実した楽しいひと時を過ごして頂くために、様々なレクリエーションイベントを開催しています。7月には七夕会を催し、紙芝居や寸劇を披露しました。他にも花火大会やハロウィン、クリスマス会、豆まきなどの行事を計画しています。ささやかなプレゼントも用意しています。



七夕会のように



豆まきのように



福井県立病院探検隊を 実施しました！

7月31日に小学校5、6年生合わせて30人が参加し、病院探検隊を実施しました。

探検隊は4班に分かれて、普段は見ることのできない、検査室・薬剤部・栄養管理室などを見学したり、AEDの使用体験や手洗いの指導を受けました。

全員が最後まで元気に参加修了し、院長より参加証明書が交付されました。



検査室にて



AED使用体験



手洗い指導

インフォメーション

10月は乳がん月間です。

当院では、次のとおり休日レディースがん検診(乳がん個別検診)を実施します。

10月22日(日) 午前8時30分から11時まで

事前にお電話でご予約ください。

くわしくは、健康診断センター 0776(57)2920まで(祝日を除く月～金曜日 9時から17時)

福井県立病院 地域医療連携推進室

FAX/(0776)57-2901※ TEL/(0776)57-2900

【月～金 8時30分～18時 (土日および年末年始)】
【土 8時30分～12時30分 (12月29日～1月3日を除く)】

※上記のFAXについては、月～土の時間外、日曜日および祝日は、救命救急センターに切り替わります。<土曜日は紹介患者受付のみで、外来診療は従来どおり休みです。>

緊急の場合は救命救急センターへ
お願いします。

救命救急センター

TEL/(0776)57-2990

FAX/(0776)57-2991



健康長寿の福井



新聞やテレビで、県の情報をキャッチ！

新聞 「県からのお知らせ」(毎月1日、15日に掲載)

テレビ番組 「おはようふくいセブン」(FBC/日曜)

// 「ほっとふくい」(ftb/1・3土曜)

// 「まちかど県政」(FBC、ftb/日曜)

広報誌 「県政広報ふくい」(年12回発行)

※ラジオやインターネットでも提供中。

問合せ先：県広報課 TEL/0776-20-0220